



## すべての子供が幸せになる学校

校長 森田 康之

### ～ タイミング ～

2週間ほど前のことになりますが、校舎の周りを歩いていると風向きによってとてもよい香りがしていることに気付きました。

金木犀です。

その素敵な香りが、「ここに金木犀があったな」と気付かせてくれました。

右の写真はちょうど同じころの彼岸花です。

名前の通り、秋のお彼岸に合わせて真っ赤な花を咲かせていました。

誰かに言われたからでもなく、時期が来れば花が咲き、香りや色で人々を楽しませてくれます。

きっと、人間も同じなのではないかと思うのです。

我々大人は、“その子のことを思って”“よかれと思って”子供にこうしたらああしたら、とアドバイス

をします。そのアドバイスが子供の心まで届き、花が咲くこともありますが、空振りに終わることも多いです。

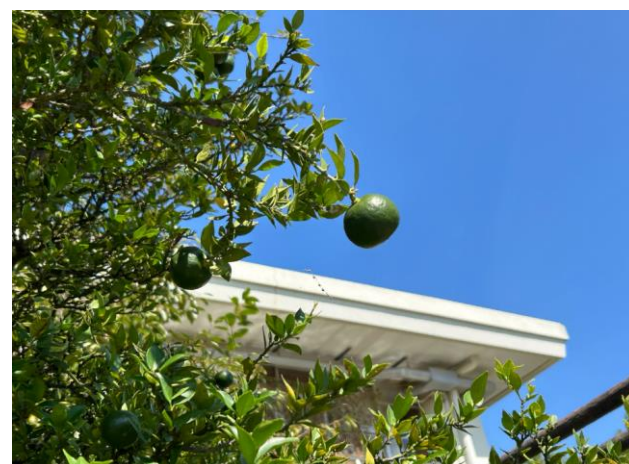
結局は、子供一人一人にその子の「タイミング(時期)」があって、そのときにならなければ、芽が出たり、花が咲いたり、実がなったりしないのではないかと考えています。

次の写真は、校庭側にあるミカンの木です。もう実をつけ始めていました。もちろんこの実は、まだまだ熟してはいません。実も小さく、深緑で皮も堅そうです。

実が熟すことがはやいことを「早熟」といいます。対義語には、「晩熟」や「晩生(晩成)」があります。

運動会に向けての学習がはじまっています。

ダンスや民舞、集団行動などの表現種目といわれる学習の様子を見ていると、すぐにダンス



を覚えて友達にもアドバイスをしている子もいれば、一つ一つの動きを確認しながらゆっくりとじっくりと民舞を覚えていく子もいます。

他の教科でも同じように、一度の説明やひとつの例を知ることによって理解する子もいれば、先生や友達の説明を何度か聞いたり、教科書を何度も読んだりすることによって理解していく子もいます。なかには、家庭学習をしているときの家族の一言で分かるようになる子もいます。

自分の経験で書かせていただくと、2年生の「かけ算」のしくみや意味が3年生の「わり算」の学習をすることによって理解した子もいました。

そもそも、はやい・遅いというのは、何を基準にいうのでしょうか？

何かの基準があってその基準より、はやいか遅いかよりも、その子のタイミングを見逃さず、チャレンジさせていくことが大切だと考えています。

そして、子供たちに必要なのは、はやい・遅いでもなく、できた・できないでもなく、遅くても自分のペースで継続することや、できなくても再チャレンジしたり、新たなことに挑んでいったりする力なのではないかと思っています。

自分をあきらめない・自分を応援する、そんな大人になってほしいと思っています。

## 10月の“Café 校長室”

10月18日(金) 10:30～

お気軽にお越しください